令和４年１月１２日
生活文化局
公益財団法人東京都歴史文化財団

「Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024」
受賞者決定のお知らせ

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、世界に発信すべき中堅アーティストの更なる飛躍を促すため、現代美術の賞「Tokyo Contemporary Art Award」を実施しています。この度、第４回受賞者が決定しましたのでお知らせします。

なお、授賞式及び受賞記念シンポジウムについては2022年３月に実施予定です。

１　「Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024」 受賞者（２名）

・Saeborg（サエボーグ）

・津田　道子（つだ　みちこ）

※敬称略／五十音順

※受賞者のプロフィール等詳細は別紙１をご参照ください。

Saeborg（サエボーグ）

Photo：ZIGEN

津田道子

Photo：飯川雄大

２　賞の概要

賞の概要については、別紙２またはwebサイト（https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/）をご参照ください。

【問い合わせ先】
生活文化局文化振興部文化事業課　電話　03-5320-7703
公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課
電話　03-5245-1142

（裏面に続く）

３　授賞式及び受賞記念シンポジウム

（１）授賞式

開催日：令和 4(2022)年 3 月 20 日（日曜日）14:00～14:30

会　場：東京都現代美術館　地下２階講堂（江東区三好４－1－１）

（２）受賞記念シンポジウム

開催日：令和 4(2022)年 3 月 20 日（日曜日）14:40～16:10

会　場：東京都現代美術館 地下 2 階講堂

※いずれもオンライン配信あり。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、実施内容等に変更等が生じる場合があります。
詳細は後日 web サイトにてお知らせいたします。

【参考】これまでの Tokyo Contemporary Art Award 受賞者について

（１）第１回（Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021）受賞者

風間　サチコ（かざま さちこ）

下道　基行（したみち もとゆき）

（２）第２回（Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022）受賞者

藤井　光（ふじい　ひかる）

山城　知佳子（やましろ　ちかこ）

※令和 4(2022)年 3 月 19 日（土曜日）より東京都現代美術館にて「Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022 受賞記念展」を開催します。詳細は web サイトをご覧ください。

（３）第３回（Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023）受賞者

志賀　理江子（しが　りえこ）

竹内　公太（たけうち　こうた）

※令和 5(2023)年春　受賞記念展開催予定

本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。
戦略１５　文化・エンターテイメント都市戦略「芸術文化の担い手サポートプロジェクト」

TCAA・
Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024

別紙１

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024
【受賞者のプロフィール等】

Ｓaeborg（サエボーグ）

1981年富山県生まれ、東京都在住。
2006年女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻卒業。

半分人間で、半分玩具の不完全なサイボーグとして、人工的であることによって、性別や年齢などを超越できると捉えるラテックス製のボディスーツを自作し、パフォーマンスとインスタレーションを国内外で展開する。カラフルで、デフォルメされた雌豚や牝牛などの家畜や害虫などが繰り広げるパフォーマンスは一見明るく楽し気だが、人間の残酷性や消費の問題のみならず、人間社会における介護やケアの問題にも接続し、強者/弱者、支える側/支えられる側という二項対立ではおさまらない、多様性の受容、共生の問題に発展させている。

〇主な展覧会
個展「Cycle of L」（高知県立美術館、2020）
「SAEBORG: SLAUGHTERHOUSE 17」（Match Gallery、リュブリャナ、スロベニア、2019）
「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」（愛知県芸術劇場）
「TARO賞20年／20人の鬼子たち」（岡本太郎記念館、東京、2017）
「六本木アートナイト2016」（六本木ヒルズ A/D gallery、東京） など。

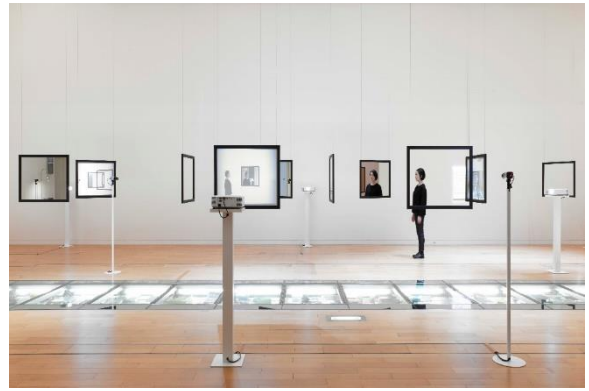
「DARK MOFO 2019『Pigpen』」公演風景(Avalon Theatre、ホバート、オーストラリア）
Photo：DARK MOFO 2019

津田　道子（つだ　みちこ）

1980年神奈川県生まれ、石川県在住。
2013年東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程映像メディア学専攻修了。

映像メディアの特性に基づき、インスタレーションやパフォーマンスなど多様な形態で制作を行う。映像装置やシンプルな構造物を配置した空間で、虚実入り混じり、パフォーマーとの境界が曖昧になる鑑賞者の視線や動作を、知覚や身体感覚についての考察へと導く。また、2016年よりパフォーマンスユニット「乳歯」として、小津安二郎の映画作品における登場人物の動きを詳細に分析し、そこに内在する人との距離や、女性の役割に関する問題を可視化するパフォーマンスなどを展開する。

〇主な展覧会
「第10回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(Queensland Art Gallery and Gallery of Modern Art、ブリスベン、オーストラリア、2021）
個展「トリローグ」（TARO NASU、東京、2020）
「『インター+プレイ展』 第1期」(十和田市現代美術館、青森、2020）
「六本木クロッシング2019展：つないでみる」(森美術館、東京）
「TOKAS Project Vol.2『FALSE SPACES 虚現空間』」(TOKAS本郷、東京、2019）
など。



《あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょう。》2016-2020、
「オープン・スペース 2016　メディア・コンシャス」展示風景（NTTインターコミュニケーション・センター［ICC］、東京）
Photo：山本　糾

別紙２

TCAA・
Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024

「Tokyo Contemporary Art Award」 概要

第４回（TCAA2022-2024）から、アーティストへの支援をより充実させるため、海外活動支援や海外発信支援の強化、支援期間の延長などの見直しを行いました。（変更点は下線部）

【目的】

国内で実績があり、世界に発信すべき中堅アーティストのステップアップを促し、世界で活躍するアーティストの登竜門となるような賞を通じ、東京の文化都市としての魅力を向上させる。

【対象】

海外での活動に意欲があり、10年以上の活動経歴を有する現代美術の分野で活動する中堅アーティスト（ジャンル不問）

【特徴】

・スタジオ訪問や面接により、**作品のみではなく**、制作のプロセスを含めたアーティストの**ポテンシャルを総合的に審査**
・**東京都現代美術館での展覧会実施、海外発信支援**等、受賞から３年間をかけて**継続的に支援**

【支援内容】

受賞者は２組とし、それぞれに以下の支援を行う。
（１）賞金300万円
（２）海外での活動支援上限200万円（旅費、滞在費、調査・制作費等）
（３）展覧会実施（東京都現代美術館での展示）
（４）モノグラフ（作品集）の作成（上記（３）の展覧会実施後に制作）・海外発信支援

【賞のスケジュール】

※第４回（TCAA2022-2024）の公募・選考から**隔年**実施となりました。

支援期間延長

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 選考委員

（順不同／敬称略）

ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ	クンストインスティテュート・メリー　ディレクター
高橋　瑞木	CHAT（Centre for Heritage, Arts and Textile）エグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター）
キャロル・インハ・ルー	北京中間美術館 ディレクター
野村　しのぶ	東京オペラシティアートギャラリー　シニア・キュレーター
鷲田　めるろ	十和田市現代美術館　館長
近藤　由紀	トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター （公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長）

※肩書きは、令和4(2022)年1月時点のものです。